



まちの風景や取組み等いろいろ紹介する花園まちのいろいろ冊子シリーズ

第4弾は2017年9月に完成した
花園町通りのリニューアル整備内容についてご紹介します



発行: 松山アーバンデザインセンター(UDCM)

企画・監修: 板東ゆかり(UDCMディレクター)

吉田英生(UDCMディレクター)

冊子デザイン: 安倍ひより(UDCM学生スタッフ)

写真※: 特記のとおり

※特記がないものは UDCM撮影

発行年: 2021年10月

はなぞの 生まれ変わる道 生まれ変わる街

目次

- 生まれ変わった花園町通り
 - リニューアル前の花園町通り
 - リニューアルまでの過程
 - リニューアル後の花園町通り
 - 1. 建物と道路が一体となった景観の形成
 - 2. 人の活動の促進
 - 3. 歩行者・自転車への配慮
 - 4. 歴史と文化を感じる空間
- 花園町通り年表

花園まちの
いろいろ冊子
04

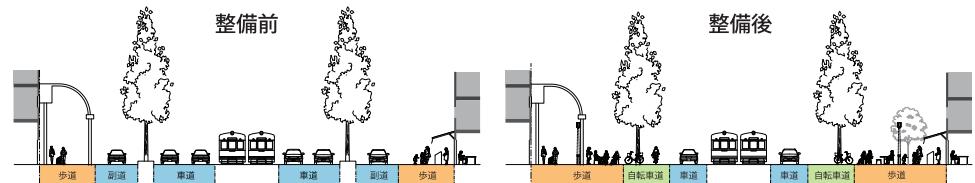
TAKE FREE



生まれ変わった花園町通り

松山市駅と松山城堀之内を結ぶ延長約250mの「花園町通り」が2017年9月に広場を備えた道路としてリニューアル

副道を含め6車線あった車道を2車線まで減らし、自転車道を整備、最大10mまで歩行空間が拡幅された「歩いて暮らせるまち松山」の新たなシンボルロードだ





近隣にあった施設（球場、プール等）の郊外移転や大型ショッピングモールの郊外立地により花園町通りのかつての賑わいは失われていた

通行量の減少や空き店舗の増加に加え、歩道に並ぶ大量の放置自転車やアーケードの老朽化など、商業活性化や安全・景観面での様々な課題が存在する状況だった

リニューアルまでの過程

計画から完成までの7年間、幾度もワークショップや社会実験を繰り返し、市民との対話は工事が完成する直前まで重ねられた



リニューアル後の 花園町通り

花園町通りにある多くの「宝」を活用しながら、安全・安心で、憩いや賑わいを育む、移動と滞留の混じり合う新たな街路へと生まれ変わった



歩道内にウッドデッキやベンチを設置
憩いや賑わいの空間として活用されて
いる

交通のための道路から、自由なアク
ティビティ（人々の活動）を生み出す
場へと変化した



3. 歩行者・自転車への配慮



歩きやすさ、来街のしやすさを
重視した空間づくり

車線を2車線まで減らしたこと
で、広場も兼ね備えたゆったり
とした歩行空間と自転車道が生
み出された



4. 歴史と文化を感じる空間

正岡子規の生誕地にちなんだ、さまざま
な仕掛け

照明灯には子規の直筆で通りの名が刻ま
れ、子規生誕碑の周りには子規にちなん
だ植栽や俳句ポストを設置

まちの歴史と文化を未来へと繋ぐ役割も
担っている



子規にちなんだ植栽には、
子規の句が添えられている



照明灯に刻まれた
子規直筆の通りの名

花園町通り年表 - 整備開始から現在まで -

